

週 報

こひつじ

第41巻 42号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

バプテスマのヨハネの最後

その二 次世代の人たちのために何をやるべきか

札幌農学校でクラークがやった一の仕事です。私が死んだら、そ
 もっともよいこととは何であつたの
 ことを彼らに伝えてもらいたい」

農学を教えたことか。数学を教
 えたことか。いずれでもない。で
 何か。あつたと、彼は振り返るのである。

その晩年は決して幸せとは言え
 なかつたクラークは、死の床でこ
 う言つた。

「私は自分の生涯の事業で、ひと
 つとして足るべきものはありませ
 ん。ただ日本の札幌においての八
 ヶ月間、学生たちと起居をともに
 し、彼らに聖書を教えたことだけ
 が、いま私の生涯を閉じるにあた
 って、自分の心を慰めるにたる唯
 は頭が上がらない。ぼくが今日あ

るのは母のおかげだ。信仰に導か
 れたのも、母の信仰があつたから
 で、一本筋の通つた母の生き方に
 心を強く打たれたからだつた」と。

道本牧師の場合も、母親に感謝
 する一番のことは、彼にイエスを
 紹介してくれたことだつたという
 のである。

「あなたが行つて、自分たち
 の見たり聞いたりしたことをヨハ
 ネに報告しなさい」
 と言われたとある。
 見たり聞いたりしたことは、
 以下のことだ。
 「目の見えない者が見、足のなえ
 た者が歩き、ツアラウトに冒され
 た者がぎよめられ、耳の聞こえな
 い者が聞き、死人が生き返り、貧
 しい者たちに福音が宣べ伝えられ
 ている」(二三節)

つまりイエスの働きによつて、
 人びとが体験しているすべてであ
 る。

イエスに出会ふとは、その教え
 を学ぶことだけではない。イエス
 によつて慰められ、いやされ、変
 えられる。そういう体験をもつこ
 となのだと思ふ。

イエスによつていやされた、あ
 の生まれつきの盲人は、何と言つ
 たか。

「あの方が罪人かどうか、私は知
 りません。ただ一つのことだけ知
 っています。私は盲目であつたの
 に、今は見えるということです」

大事なのはこのような大きな変

化を自分のものとするこただ。

貪欲な取税人ザアカイは、イエスに出会った瞬間に、財産の半分を貧しい人に施し、だまし取った物を四倍にして返すほどの人に変えられた。

クリスマスチャンの迫害者だったパウロは、ダマスコの途上で光に照らされ、愛の人となり、その後の生涯を伝道にささげた。

私にとってもキリスト教とは、

イエスとの人格的な出会いであり、それによる内面の変化だった。

高校時代、進学の道が閉ざされ、落胆し、暗い気持ちで生きていた私に、イエスはたとえ小さくても意味のある人生を生きたのである。そこで私は決意した。もう人をうらやまい。人をまねることもすまい。ただ神が自分のために備えてくださった道を歩もうと。(続)

今日の礼拝

○礼拝は午前10時半から。

○教会学校は午前10時半から。

○説教は岩崎宏志さん。

○礼拝後、昼食交わり会。

次週(十一月二日)の礼拝

○礼拝、教会学校はともに午前10時半から。

○説教は米村牧師

先週の礼拝報告

○司会は宮元隆博さん。

○説教は「だから、聞き方に注意しなさい。というのは、持っている人は、さらに与えられ、持たない人は、持っていると思ってい

るものまでも取り上げられるからです」(ルカ八の一八)からでした。

「主よ。私はどうしたらよいのでしょうか」(使徒二二の一〇)と応答しました。よい聞き方とは、ただちに行動に移ることではないかと語りました。

○幸子さんの旅行報告のほか、

久しぶりに来られた下田晴美さん、長女の笠愛さん、そして愛さんの

友人山下美紀さんの紹介がありました。

○礼拝参加者は七九名(男二八、女五一)、それに子どもが一名、合わせて八〇名でした。

サパーの会

一〇月一八日(土)午後六時から、こひつじ館で「サパーの会」を開きました。今回はたこ焼き。参加者は七名でした。次回はもっと若い方がたを誘いたいとのことでした。

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp